



①湯の元無人販売所



トマトなどの農産物を販売している大きめの無人販売所。木材やめだかの販売も行っているが、私たちが訪れた時にはほとんど在庫がなかった。すぐ近くに湯の元公民館もあるため交流の場としては最適であるが、人通りが少ないようにも感じた。

②湯の元公民館



地域会議や高齢者の体操などで活発に用いられている公民館。地域住民にとっての集会所の役割を果たしている。近くには無人販売所もあり、交流の場所にピッタリ。

③信楽寺保育園（しんぎょうじ）



お話を伺いに行くと園児たちが元気に迎えてくれた。保育士の方の話によると、20年前は100人程度の児童を受け入れていたが、現在は少子化の影響もあり半数の50人程度となっている。園児たちに普段どこで遊んでいるのか聞いてみると保育園と答えてくれた。近くに公園のような遊び場は見られなかったため、子供たちにとっての貴重な遊び場として機能している。

④水田



暑い中、お年を召した男性が一人で家畜の飼料稲に農薬を撒いていた。補助金が出るためしっかりとした管理が必要であるが、広大な水田を男性一人で管理するのはかなり大変そうで、若者の力が必要だと感じた。

⑤ひょうすんぼ



国道10号線沿いにあるカヤシマ都農店。その駐車場に都農著商工会青年部 結成30周年記念事業による河童の置物があった。ひょうすんぼとは宮崎・佐賀を中心とする河童の呼び方で、ナスが好物で毛深いという特徴を持つ。

⑥地域福祉バス



都農町コミュニティバス停留所。バスにはつのびんや特産物などが描かれており、通学路線及び生活路線の確保のため町内を巡回している。高齢者の方々にとってとても役立つサービスだと思われる。

⑦海老原都農病院跡



1996年に開設され、地域の中核病院として都農町の多くの患者がいたが2002年に高鍋町に移転。現在、この建物自体は使用されておらず、大規模な破損は見られないが、壁が非常に汚れており暗い印象を受けた。また、鍵が閉まっていない扉があり、都農町立都農小学校が定める危険個所の一つとなっている。

⑨ふるさと自動販売機



側面にはキャッチーな大きめのつのびよんの写真、反対側には都農町の名所が説明文とともに記載されている自動販売機。よく見ると、都農町のマップも描かれており、多くの人々が利用するため、地のアピールにもってこい。

⑧金丸茶舗



町内外で茶葉を作り、この場所で加工している。ここでは新茶を作り、販売している。町内でお茶を販売しているのはここだけである。

⑪児童公園



廃校となった都農高等学校の隣にある公園。遊具は少ないが広く、木陰や椅子、机があり、憩いの場となっていそうだ。

⑩南国プリン都農研究所



2023年3月終わりの4周年を迎えた南国プリン。より多くの人に商品を届けるために2022年の4月、都農町に支店としてオープンした。都農町の店舗では定番のプリンと季節限定のプリンを販売している。商品開発も行っており、プリンを作る際に出る無脂肪乳の無駄がなくなるようにフィナンシェや空揚げの販売も行っている。他にも季節限定のプリンや販売されているジュースには地元産の食材が使われており、プリンには川南産のいちご、ジュースには都農町で育てられた早生みかんや尾鈴産のぶどうが活用されていた。現在はイベント出展に力を入れており、都農町のみちくさ市や川南町の軽トラ市など宮崎県のイベントはもちろんのこと、県外のイベントにも出店して、南国プリンの名を広めている。地元の方にも旅行者にも人気なお店、南国プリン。都農町を訪れた際にはぜひ立ち寄って欲しい。

まとめ

今回私たちは旧海老原病院や無人メダカ販売所などの昔の街並みが多く残っている地域を探索した。旧海老原病院の他にも空き家や誰もいない壊れかけの工具小屋のようなものもかなり過疎化の進んでいる地域としての面影が多くあった。一方、あいさつをしたら明るく返してくれたり調査に協力してくれたり町民の温かさをととても感じた。町民の話を聞くとやはり子供がととても減ったということだったので地域存続の観点からみるとかなり危機的であると感じた。花やプリンなど地域の特性を生かして子供を産む世代の獲得を自治体が目指していくべきだと感じた。